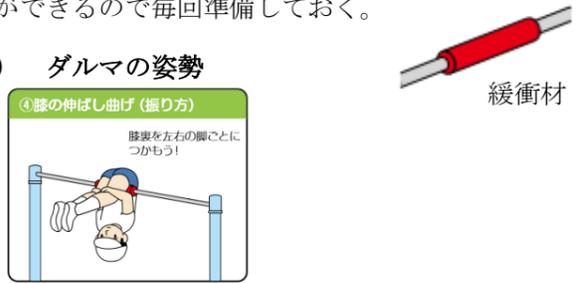


時	1	2	3	4	5	6	7	8
目標	<p>【知識及び技能】 ダルマ振り, 逆上がりの行い方を知るとともに, ダルマ振り, 逆上がりで十分取り組んだ上で, それらの発展技に取り組んだり, 技を繰り返したりすることができるようにする。</p> <p>【思考力, 判断力, 表現力等】 ダルマ振り, 逆上がりの練習を工夫するとともに, 考えたことを友達に伝えることができるようにする。</p> <p>【学びに向かう力, 人間性等】 ダルマ振り, 逆上がりに進んで取り組み, 順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり, 場の安全に気を付けたりすることができるようにする。</p>							
コア技術	<p>【ダルマ振り】</p> <p>① 脇を閉めて肘を鉄棒に固定し, 両手で太腿を持っている。(脇しめ・肘ロック)</p> <p>② ブランコのように足を曲げ伸ばしている。</p> <p>【逆上がり】</p> <p>① 腕支持をしている。</p> <p>② 地面を上に向かって蹴り上げている。</p> <p>③ あごを引き固定している。(あごロック)</p>							
めあて	学習の進め方を知り, 学習のめあてを持つ。	足の曲げ伸ばしで, 体を大きく振ろう。	ダルマ振り, 逆上がりのポイントを考えよう。	ダルマ振り, 逆上がりで勢いをつけ, 頭を鉄棒の上まで上げよう。	逆上がりの起き上がる練習をしよう。	友達がうまくなるポイントを伝えよう。	自分に合った場を考えて, 練習しよう。	友だちのいいところを見つけよう。
指導内容	<p>1. 準備運動 (加茂小体操)</p> <p>2. ダルマ振りの姿勢の確認</p> <p>(1) ふとんほし</p> <p>※ 鉄棒は腰骨に当てると痛くないので, 児童には「おへその下を掛ける」と伝えるとよい。</p> <p>※ 緩衝材を使用することで児童に安心感を与えることができるので毎回準備しておく。</p> <p>(2) ダルマの姿勢</p>  <p>※ 脇をしめて, 膝の後ろを持つ。地面に座り, グループの他者が背中を押しても倒れないようにする。</p> <p>3. 逆上がりへのスモールステップ① 足抜き回り</p> <p>※ 足抜き回りの練習をして後ろに倒れる感覚や回る感覚を身に付ける。</p> <p>① 慣れてきたら連続して行う。</p> <p>② 苦手な児童は, 足を鉄棒に掛けたところから始める登り棒で行うとやりやすい。</p>  <p>4. 学習のまとめ</p> <p>5. 振り返り</p>	<p>1. 準備運動 (加茂小体操)</p> <p>2. ダルマ振りのポイントの発見</p> <p>(1) 手本や動画を見ながらポイントを考える。</p> <p>① 脇しめ, 肘ロック</p> <p>② ブランコ振り (ブランコをこぐときのように 膝の曲げ伸ばしをする。)</p>  <p>(2) ダルマ振り (膝の伸ばし曲げ)</p> <p>※ 脇をしめて, 膝の後ろを持つ。地面に座り, グループの他者が背中を押しても倒れないようにする。</p> <p>かかわりあい</p> <p>補助</p> <p>・技を行う児童と反対側に立ち, 「まげて~, のばして~」のリズムに合わせて, 足振りを手伝う。</p> <p>・脇しめ, 肘ロックができているかを確認する。</p> <p>声かけ</p> <p>③ 「わきしめ, ひじロック」</p> <p>④ 足振りに合わせて「まげて~, のばして~」と口伴奏をする。</p> <p>3. 逆上がりへのスモールステップ② 補助具を使って鉄棒と体を離さないようにする練習</p> <p>かかわりあい</p> <p>補助</p> <p>・補助をしてもらい回転し, 回る感覚をつかむ。</p>  <p>4. 学習のまとめ</p> <p>5. 振り返り</p>	<p>1. 準備運動 (加茂小体操)</p> <p>2. ダルマ振り (膝の伸ばし曲げ)</p> <p>かかわりあい</p> <p>補助</p> <p>・技を行う児童と反対側に立ち, 「まげて~, のばして~」のリズムに合わせて, 足振りを手伝う。</p> <p>・脇しめ, 肘ロックができているかを確認する。</p> <p>声かけ</p> <p>③ 「わきしめ, ひじロック」</p> <p>④ 足振りに合わせて「まげて~, のばして~」と口伴奏をする。</p> <p>3. 逆上がりへのスモールステップ③</p> <p>(1) 足抜き回り</p> <p>(2) 補助具を使っての練習</p> <p>(3) ふとんほしから振動をして, 起き上がる練習をする</p> <p>※ 手首を返す練習もする。</p>  <p>かかわりあい</p> <p>補助</p> <p>・鉄棒の前に立ち, 太ももと腰を支えて持ち上げる。</p> <p>声かけ</p> <p>「1, 2, 3!」</p> <p>4. 学習のまとめ</p> <p>5. 振り返り</p> <p>・補助は必ず近くで待機し, 落ちそうになったときには服などを掴んで, 落下の衝撃を軽減させるよう, 安全面にも十分注意させる。</p> <p>つまずき</p> <p>だるまの姿勢が崩れる。(脇に鉄棒が入り込んでしまっただるまの姿勢が崩れる。)</p> <p>→脇をしっかりとしめ, 肘を鉄棒につけさせる。</p>	<p>1. 準備運動 (加茂小体操)</p> <p>2. ダルマ振り (膝の伸ばし曲げ)</p> <p>3. 逆上がりの練習</p> <p>かかわりあい</p> <p>補助 (3人)</p> <p>補助①…技を行う児童と同じ側に立ち, 背中を持ち上げる。</p> <p>補助②…技を行う児童と反対側に立ち, 背中を持ち上げる。</p> <p>補助③…技を行う児童の後ろに立ち, 声掛けをする。</p> <p>※揺れに合わせて「いち, にー, のー, さんっ」で持ち上げて回転を助ける。</p> <p>声かけ</p> <p>① 「わきしめ, ひじロック」(だるまの姿勢)</p> <p>② 「まげて~のばして~」(足振り)</p> <p>※ 友だちの実態に応じて, 振っている中で赤白帽を使って高さを少しずつ高くまで振れるようにしていきたい。</p>  <p>4. 学習のまとめ</p> <p>5. 振り返り</p>	<p>1. 準備運動 (加茂小体操)</p> <p>2. 本時のめあての提示 発表方法の確認</p> <p>3. レベルに合わせた練習</p> <p>4. 発表会</p> <p>VTRの確認</p> <p>技の出来映えについて助言し合う。</p> <p>5. 学習のまとめ</p> <p>6. 振り返り</p>			
指導上の留意点	<p>「脇を閉め, 鉄棒に肘を着け, 左右の手で左右の太腿を持つ」ことを, 実際に声に出して言うようにして, 正しい姿勢を確認させる。</p> <p>※ ダルマ振りをする上で最も大切なことなので, はじめのうちに全員に周知させた上で取り組むようにさせる必要がある。</p>							
知		② 観察・ICT					② 観察・ICT	① 観察
思			① 観察				① 観察	② 観察
態	④ 観察	③ 観察		① 観察・カード		② 観察・カード		

単元の評価規準

【ダルマ振り，逆上がり（鉄棒を使った運動遊び）】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① ダルマ振り，逆上がりの行い方について，言ったり実際に動いたりしている。 ② 脇をしっかりと締め，膝の裏付近を左右の脚ごと持ち，肘が鉄棒に付くようにして，膝を曲げたり伸ばしたりすることで勢いをつけ体を振ることができる。（ダルマ振りの技能） ③ 足の振り上げとともに腕を曲げ，上体を後方へ倒し手首を返して鉄棒に上がることができる。（逆上がりの技能）	① 上手くできたところやできなかったところを，学習カードや掲示物などの連続図に目印や色をつけたり，シールを貼ったりして，自己の能力に適した課題を見付けている。 ② 友達のよい動きを見付けたり，自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書いたりしている。	① ダルマ振り，逆上がりに進んで取り組もうとしている。 ② 場の正しい使い方や試技をする前の待ち方，技を観察するときなどのきまりを守り，誰とでも仲よく励まし合おうとしている。 ③ 場の準備や片付けを，友達と一緒にしようとしている。 ④ 場の安全に気を付けている。

【単元の評価規準を基にした「十分満足できる姿」】

(1) 知識・技能

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① ダルマ振り，逆上がりの行い方について，言ったり実際に動いたりしている。	・ ダルマ振り，逆上がりの留意点を友達や教師に詳しく伝えたり，カードに書いたりすることができる。
② 脇をしっかりと締め，膝の裏付近を左右の脚ごと持ち，肘が鉄棒に付くようにして，膝を曲げたり伸ばしたりすることで勢いをつけ体を振ることができる。	・ 膝を曲げたり伸ばしたりすることで勢いをつけ，頭を鉄棒の高さよりも上まで大きく振ることができる。
③ 足の振り上げとともに腕を曲げ，上体を後方へ倒し手首を返して鉄棒に上がることができる。	・ 逆上がりを安定して行うことができる。（何度も繰り返してできる）

(2) 思考・判断・表現

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① 上手くできたところやできなかったところを，学習カードや掲示物などの連続図に目印や色をつけたり，シールを貼ったりして，自己の能力に適した課題を見付けている。	・ 倒立ブリッジを習得するためにはどのような動きが必要かを考え，課題に応じて試行錯誤しながら取り組んでいる。
② 友達のよい動きを見付けたり，自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書いたりしている。	・ 手の着く位置や着地する位置，視線が向く場所などに目印をして，技のできばえを振り返り，自己の動きをよりよくする行い方を選んでいる。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① ダルマ振り，逆上がりに進んで取り組もうとしている。	・ ダルマ振り，逆上がりへの習得に向け多様な行い方を選んで試している。
② 場の正しい使い方や試技をする前の待ち方，技を観察するときなどのきまりを守り，誰とでも仲よく励まし合おうとしている。	・ 自分が楽しむだけでなく，グループの友達を励ましたり，応援したりしている。
③ 場の準備や片付けを，友達と一緒にしようとしている。	・ 場の準備や片付けを率先して行っている。
④ 場の安全に気を付けている。	・ 自分のことだけでなく，周囲の安全にも気を配っている。

※ 学習指導要領解説の技の例示とは異なった学年で授業を計画しています。その理由は以下の2点です。

- ① 器械運動の技を系統的・段階的に習得するため。
- ② 器械運動の授業を学年間で偏りなく行うため。